

平成31年3月14日
(資料提供)

(事務担当) 所属名：農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 直通：257-6972
--

平成30年度病害虫発生予報第8号について

今後、発生が予想される 水稻、大麦、果樹、野菜の 病害虫の発生量や防除上の注意事項などを掲載する。

1 予報期間 3月下旬～4月下旬

2 予報内容

(1) 水稻

もみ枯細菌病（苗腐敗症）の発生はやや少と予想される。種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

(2) 大麦

オオムギ赤かび病の発生は、やや少と予想される。出穂期の3～5日後およびその7～10日後の2回防除する。本年は暖冬で推移し出穂期が早まる可能性があるため、麦の生育状況に注意し、防除が遅れないよう留意する。

(3) 果樹

かき炭疽病の発生は、多と予想される。罹病枝は発生源となるので直ちに切り、圃場から除去する。休眠期の防除を徹底する。

ハダニ類の発生は、多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

(4) 野菜

施設野菜のアブラムシ類の発生は、多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

施設野菜のハダニ類の発生は、やや多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し遵守する。また、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。